

岐阜県の森林・林業

森もり林のたより

再造林の推進

No.770
2017 November

11

FREE

ご自由にお持ちください。



●住友林業(株)岐阜樹木育苗センター(下呂市地内)の苗木生産状況と同センターから出荷されたスギ苗を使った再造林地(揖斐川町地内)

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	開催場所 問い合わせ先
11月4日(土) 11月19日(日) 11月25日(土)	清流の国ぎふ 親子「森・里・川・海」 体験ツアー (秋コース)	<ul style="list-style-type: none"> ●内容: 自然体験・活動を通して、流域の環境について親子で学ぶツアーです。 ●対象: 小・中学生と保護者 ●定員: 24名~40名(開催日により異なります) ●参加費: 開催日により異なります ●参加申込: 電話、FAXまたはWebサイトから 	岐阜県内 ----- 名鉄観光サービス(株) 岐阜支店 TEL 058-265-8103 FAX 058-263-5059 Web「名鉄観光 清流の国ぎふ」で検索 【申込受付中】
11月3日(金)	ぎふの木のおもちゃ広場	<ul style="list-style-type: none"> ●内容: 清流の国ぎふ文化の森の秋祭りの会場にて、「ぎふの木のおもちゃ広場」を開催します。子どもから大人まで、丸ごと1日、ぎふの木のおもちゃで遊んで、楽しめるイベントです。 ●開催時間: 10:00~16:00 ●入場無料・事前申込み不要 	岐阜県美術館、岐阜県図書館 (岐阜市宇佐地内) ----- 岐阜県林政部恵みの森づくり推進課 TEL 058-272-8472 FAX 058-278-2702 E-mail c11513@pref.gifu.lg.jp
11月11日(土) ~11月12日(日)	オープンキャンパス in翔楓祭 (森林文化アカデミー学園祭)	<ul style="list-style-type: none"> ●時間: 2日とも10:00~15:00 ●内容: 森林文化アカデミー学園祭「翔楓祭」の開催に合わせて、「学校説明」のブースを出展 	森林文化アカデミー(美濃市首代88) ----- 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL http://www.forest.ac.jp/
11月19日(日)	森林の仕事 エリアガイダンス	林業に興味がある方を対象に、林業に関する情報や就業についての説明をします。林業労働力確保支援センターや林業事業体が相談ブースを設け、参加者からの相談に応じます。	名古屋国際センター別棟ホール ----- 岐阜県林業労働力確保支援センター ((公社)岐阜県森林公社) 0575-33-4011(代表電話) http://www.gifu-shinrin.or.jp/labor/
11月20日(月) ~12月5日(火)	平成30年度 森林文化アカデミー 入学試験(第2回) 願書受付期間	<ul style="list-style-type: none"> ●森と木のエンジニア科(一般入試1) 12月16日(土) ●森と木のクリエイター科(入試2) 12月17日(日) ●入学願書(学生募集要項)については、ホームページ(http://www.forest.ac.jp/)からダウンロードできます。 	森林文化アカデミー(美濃市首代88) ----- 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL http://www.forest.ac.jp/
11月24日(金)	第6回緑豊かな 清流の国ぎふづくり 県民フォーラム	「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した県民参加型の森づくり・川づくり活動等を紹介し、清流の国づくりを考えるフォーラムを開催します。〔「清流の国ぎふアワード2017」として清流ミナモ賞表彰式と合同開催〕 <ul style="list-style-type: none"> ●時間: 13時30分~16時15分 ●参加料: 無料 ●事前申込: 要 	ぎふ清流文化プラザ2階 長良川ホール ----- 岐阜県林政部恵みの森づくり推進課 TEL 058-272-8472 FAX 058-278-2702 e-mail c11513@pref.gifu.lg.jp



市況	18
林業者向けお知らせ	17
参加者募集 緑豊かな清流の国ぎふづくり県民フォーラム	17
「100年先の森林づくり発表会」を開催します	16
国有林の現場から(14)	15
下呂地域における普及活動 ―自伐林家とともに―	14
研究コーナー ヒノキ・コナラ苗の通年植栽を考える	12
治山・林道研究課題	11
治山ダムの高上げについての「一考察」	11
普及コーナー	11
モニタリング研修会を開催しました	11
平成29年度指定管理鳥獣捕獲等事業について	11
シリーズ: 『森林・環境税』で、緑豊かな清流の国ぎふづくり(7)	10
安八町ハートピア安八児童館での木育	9
わがまちの森林・環境行政(11)	8
山のおしゃまむし(316) ―運の分かれ目、トカゲ―	7
第53回 関東・中部地区治山林道研究発表会が開催されました	7
ぎふの木を使った家づくり支援制度のご案内	7
「山の保存食」にみる 森林と人のかかわり	6
企業との協働による森林づくり	5
岐阜県林業経営コンクルの表彰式を開催!	5
再造林の推進について	4
山の歳時記(147) センブリ	4
岐阜県緑化功労者及び	3
イベントカレンダー(一般向け)	2

岐阜県の森林・林業 News of the forest

森もりのたより

No.770 11
2017 November



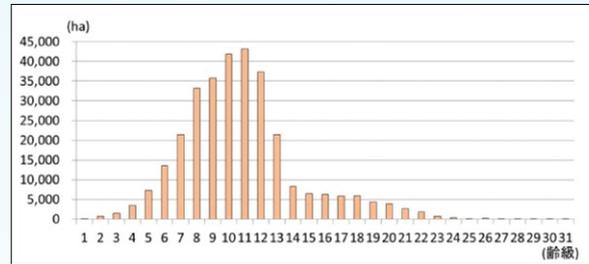
表紙 ● 住友林業(株)岐阜樹木育苗センター(下呂市地内)の苗木生産状況と同センターから出荷されたスギ苗を使った再造林地(揖斐川町地内)

再造林の推進について

岐阜県では、第3期岐阜県森林づくり基本計画の3本柱の一つである「100年先の森林づくり」を実現するために木材生産林での再造林を推進しています。

岐阜県の人工林の齢級構成は10～12齢級をピークとした偏った構成となっており、このまま偏りを放置していれば将来、持続的な木材生産が困難になるばかりでなく、森林の持つ公益的機能の発揮ができなくなることが危惧されます。

そのため、主伐と再造林を継続的に行うことで齢級を平準化する必要があります。



人工林の齢級構成 (H27)



コンテナ苗の植栽



植栽されたスギコンテナ苗



獣害対策

再造林に対する支援について

岐阜県では、再造林やその後の保育作業等に係る森林所有者の方の負担を軽減するために、森林経営計画に基づく下記の施業に対して森林整備事業補助金の県高上げを実施しています。積極的な活用をお願いします。

区分	対象施業	県高上げ分	実質補助率
再造林・保育	再造林、下刈り・雪起こし（1齢級まで） （木材生産林に区分された森林、または区分される予定の森林に限る）	17%	85%
森林作業道	森林作業道の開設（再造林を目的としたもの）	12% ※17%	80% ※85%
鳥獣害対策	忌避剤散布、防護柵設置、幼齢木保護材設置 （再造林と一体的に行うもの）	32%	100%

※複数の者が共同で森林経営計画を策定している場合

コンテナ苗の生産について

平成29年3月に住友林業(株)が整備を進めていた岐阜樹木育苗センターが完成し、本施設の稼働によりスギ等のコンテナ苗の生産量が増加しました。

また、県内苗木生産者においてもコンテナ苗の生産が本格化していますので、今後、コンテナ苗の普及が進むことが期待されます。



コンテナ苗の育苗(岐阜樹木育苗センター)





文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

高山市の陣屋前朝市を覗くと、「当薬」と書かれた文字を見つけました。

当薬とはセンブリ (Swertia japonica) のこと。「当(まさ)に薬」を意味するほど、良く効くことを表しています。

センブリはリンドウ科の2年生草本で、1年目は地面に張りつくように小さな楕円形の根生葉を放射状に出した状態で越冬し、2年目に暗紫色を帯びた茎を根元から

1〜数本直立させ、対生する狭皮針形の葉を出します。茎は太さ1〜2mmの四角い断面で、10〜11月には草丈5〜40cmになって、白く縦に紫色の線が入った五弁花を多数咲かせます。

センブリは日本固有の薬草で、熱湯に千回振り出し(煎じ)ても、なお苦味が残るという「千振り」が名の由来です。寺島良安の『和漢三歳図会(1713年)』には、「味は非常に苦く胃酸過多、胃潰瘍、胃炎を治し、日本では丸薬、散薬として使い、駆虫剤として瘰癧による痛みに使う。」とあります。

また貝原益軒の『大和本草(1709年)』には「糊に当薬の煮汁を入れて裏打ちし、屏風を張れば虫はわかない」とあります。

薬効のある苦味成分は花を咲かせることからタネをつけるころが最も多く、薬効はタネを播き散らした後でも変わりがないため、毎年収穫するのであれば必ずタネを播き終わる11月頃に採取すること

をおすすめします。

センブリの有効成分はスエルチアマリンなどの苦味配糖体、スエルチニンなどのキサントン誘導体、フラボノイドなどです。薬としての苦さは俗に「竜胆(リンドウの根)の十倍」と例えられますが、センブリに含まれる最も苦い成分はアマロスエリンです。

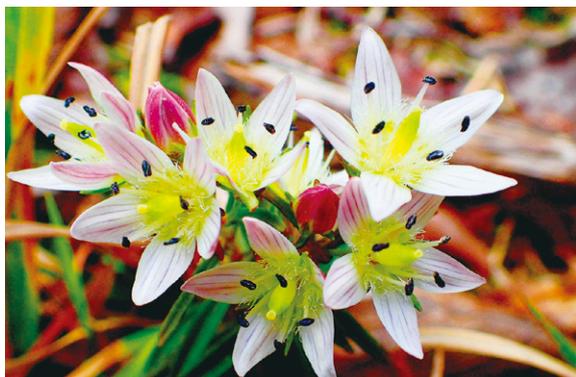
和漢の生薬、置き薬で有名な奈良の「三光丸」は、センブリが多く使用されています。センブリの生産は天然採集なら東北地方、栽培なら長野県や高知県が主ですが、これらの年間消費量の約三割を三光丸が占めています。

高山に限ったことではなく、センブリの乾燥品は観光地の土産物店などでよく販売されていますが、本品は医薬品と見なされるので薬事法の許可無く販売することは薬事法違反になります。

センブリは多方面で利用され、一昔前には大手化粧品メーカーがセンブリエキス入りの育毛トニックを

発売していました。何でもセンブリのアルコール抽出成分が毛根を刺激し、育毛効果を現そうです。ほかにも精神的な円形脱毛症への効果、胃液分泌促進効果、胆汁分泌増加作用、中枢抑制作用、肝臓障害抑制作用等色々な作用も確認されています。

「良薬は口に苦し」と言いますが、毛根に刺激を与えるのはこの苦味成分なのかもしれません。



▲美しい花を咲かせたセンブリ

岐阜県緑化功労者及び岐阜県林業経営コンクールの表彰式を開催！

県では、多年にわたり緑化運動への功績が顕著であった個人・団体を「岐阜県緑化功労者」として、また優良な林業経営を行う林業経営者・法人・団体等を「岐阜県林業経営コンクール」において決定し、毎年表彰しています。このたび、5者(個人・団体)の方が受賞され、8月25日に岐阜県庁で表彰式を開催しました。



【恵みの森づくり推進課 福井 樹】

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8473 恵みの森づくり推進課まで

受賞者

●岐阜県緑化功労者

早川 誠爾さん(関市)
水口 正則さん(下呂市)
安江 兼広さん(東白川村)

●岐阜県林業経営コンクール

[団体]北方財産区管理会(揖斐川町)
[個人]直井 宏夫さん(郡上市)



企業との協働による森林づくり じゅうろくの森“みたけ”



森林づくり協定を締結しました

県では、県民協働による森林づくりの一環として、「企業との協働による森林づくり」を推進しています。このたび、その23例目として、9月27日に株式会社十六銀行(本店:岐阜市)、御嵩町及び県との間で「じゅうろくの森“みたけ”」における森林づくり協定を締結しました。

御嵩町役場で行われた協定締結式では、株式会社十六銀行 秋葉和人 取締役常務執行役員、御嵩町 渡邊公夫 町長、岐阜県林政部 平井實 次長が出席し、協定書に署名を行いました。秋葉執行役員は挨拶の中で「地域の森林整備に積極的に貢献したい。」と抱負を述べられました。

同行はこれまでも「日本の森を守る地方銀行有志の会*」の会員として活動を進めており、また今年で創業140周年を迎えたことから、今回、森林づくり協定を締結することとなりました。

*地方銀行のネットワークと各地域行政機関や各関係団体との連携を更に強化しながら森づくりや自然環境保全等の『輪』を全国に広げ、美しい日本の風景や環境を守り、成熟した素晴らしい社会の実現に積極的に取り組む会(全国64の地方銀行が参加)

じゅうろくの森“みたけ”

- 森林の所在地
御嵩町中切地内他(御嵩町有林)
- 森林の面積
6.71ヘクタール
- 協定期間
平成29年9月27日~平成35年3月31日
- 活動内容
・森林整備(除・間伐、下刈り、植栽など)
・遊歩道整備、環境学習(自然観察会など)



左から渡邊町長、秋葉執行役員、平井次長

【恵みの森づくり推進課 森 孝博】

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8473 恵みの森づくり推進課まで



●保存食とは

保存食とは、比較的長期間(数か月から長いもので数年程度)にわたって貯蔵するため、腐敗を抑制する加工や処理がされた食品のことです。そもそも保存食は冬季や乾季に長期間の食糧確保が難しい地方や、遠洋航海や戦争などの特殊事情に対応するため人々が工夫してきた生活の知恵で、世界中に見られます。日本の伝統的な食文化は、穀物を主体に野菜、果物、魚介類で構成されてきましたが、特に寒冷地や魚介類の流通に時間がかかる山村地域で発達してきました。

現代では各種の食品保存技術が発達し、冷蔵庫・冷凍庫が家庭にも普及したため、私たちが伝統的な保存食に頼る必要はなくなりましたが、味噌・醤油・納豆・漬物などの発酵食品(代表的な保存食)は健康志向の高まりと共に改めて注目されています。

「山の保存食」にみる
森林と人のかかわり

岐阜県立森林文化アカデミー 教授(揖斐川町駐在) ●嵯峨 創平

●旧徳山村の保存食

旧徳山村は、岐阜県の西端を流れる揖斐川の最上流部にあった山村で、徳山ダムの建設に伴い、昭和62年に廃村となり、全村466世帯(約1,500人)が離村し、水没しました。かつての徳山村の暮らしぶりは、徳山湖畔にある徳山会館や、道の駅ふじはしの徳山民俗資料収蔵庫などで窺い知ることができます。

標高4000~1,200m級の山並みに取り囲まれた8つの集落では水田が少ししかできず、ブナ・ミズナラ林から採れる豊富な山菜・キノコ類が重要な食糧資源でした。徳山の人々は春と秋に山へ入ると、約25kgを一荷にして担いで帰り、大量の塩漬けを作って冬の野菜が不足する季節に備えたそうです。また北端の冠山を越えて越前地方から塩や塩干物の魚介類を買い入れれば惣菜料理に使っていました。中でも山菜の王様といわれるヤマウ

ドは、5月頃に太さと硬さが程よいものを選んで収穫すると、そのままレンジで食べたり、アク抜きと水煮をしてから味噌和え、キンピラ、ゴロ煮など様々な料理に使われたそうです。(徳山会館N館長のお話より)



●保存食にみる
森林と人のかかわり

山菜類は、自然のままの森林よりも段木(ダンボク)・徳山特産の薪の意を伐った後の草地の方がよく成長します。

村の人々は主産物であった段木を生産する森林を循環利用しながら、山菜が生育しやすい環境も整えていました。同様にキノコ類も、ブナ・ミズナラの倒木からブナシメジ・ナメコが出るので、その場所や時期をよくわきまえて、継続的に収穫ができるよう採り尽くさない加減を守っていました。こうして長年にわたって暮らしのために働き掛けを行ってきた森林の方が恵みが豊かなことを、徳山の人々は経験的に知っていました。

●「山の保存食」キッチン&
カフェの構想

森林の恵みに手間をかけて食卓に上げるような暮らし方を見つめ直し、山村の食文化を広く発信するような活動を興したいと思い、揖斐川町内で古民家を拠点に「山の保存食」キッチン&カフェを立ち上げる活動を仲間達と始めています。旬の時期には余りがちな山菜、野菜、果実、肉類などの処理は一人でやると面倒ですが、皆で集まってやれば楽しい共同作業に変わります。皆で持ち寄り・調理し・持ち帰るようなシェアエコノミーと、保存食をキーワードにした世界との交流もできたら楽しいと妄想を膨らませています。皆さんも一緒にやってみませんか？

ぎふの木を使った家づくり支援制度のご案内

～後期の申請受付を開始しました!～

岐阜県では、安心・安全な家づくりに県産材を積極的に利用していただくため、新築の際、柱や梁など構造材に「ぎふ性能表示材」を一定量以上使用する建築主に助成を行っています。11月1日より、ぎふの木で家づくり支援事業（県内）、ぎふの木で内装木質化支援事業（新築タイプ）の後期募集を開始しています。その他の事業は、引き続き募集を行っています。

詳しくは、県のホームページに、応募状況、申し込み条件、必要書類等を掲載していますので、ご確認ください。

[ぎふの木で家づくり](#)

[検索](#)

■新規募集

	ぎふの木で家づくり支援事業(県内)	ぎふの木で内装木質化支援事業(新築タイプ)
募集棟数	94棟(先着順) ※H29.10.1～H30.2.28に上棟する住宅が対象	25棟(先着順) ※H30.2.28までに内装工事が完了する住宅が対象
助成額	20万円	「ぎふ証明材」を50㎡以上使用：10万円 「ぎふ性能表示材」を50㎡以上使用：12万円
申請先	住宅の建築場所を所管する県農林事務所林業課 ※内装の申請をする際は、ぎふの木で家づくり支援事業申請時に内装工事「有」で事前申請すること。	
受付期間	平成29年11月1日(水)～平成30年2月14日(水) ※上棟の14日前までに申請して下さい。	平成29年11月1日(水)～平成30年2月28日(水) ※内装工事後に申請して下さい。



■継続募集

- ぎふの木で家づくり支援事業(移住定住)
募集棟数:20棟
- ぎふの木で内装木質化支援事業(改修タイプ)
募集棟数:20棟
- ぎふの木で家づくりローン支援制度
募集棟数:100棟
- ぎふの木で家づくり支援事業(県外)
募集棟数:30棟
- ぎふの木で木づかい施設支援事業
募集棟数:5棟



【県産材流通課 山田 純司】

●詳しい内容を知りたい方は [TEL 058-272-8487](tel:058-272-8487) 県産材流通課 消費対策係まで

第53回 関東・中部地区治山林道研究発表会が開催されました

去る平成29年8月25日、東京都墨田区の江戸東京博物館において、第53回関東・中部地区治山林道研究発表会が開催され、福島県を除く関東森林管理局と中部森林管理局管内の治山、林道事業を担当する国、県、市町村、森林組合等の職員約200名が参加しました。

治山研究会及び林道研究会は、会員相互の技術の研鑽を目的としており、日常業務の中で課題を見付けて調査研究した治山10題、林道7題の計17題の発表がありました。

このうち、近年顕著となっている局所的集中豪雨などからの復旧や県産木材の利用促進といった問題に着眼した内容が9題あり、全国共通の課題として関心の高さがうかがわれたほか、発表者の平均年齢が若く、技術者の登竜門となっていることが感じられました。

技術の発展性、業務への活用性等が評価された4題が優秀賞を受賞しましたが、本県からの治山1題、林道1題の発表は、惜しくも受賞はなりませんでした。

本会は1都16県の持ち回りとなっており、今回は神奈川県で開催されます。



「既設治山ダムの高上げについての一考察」
治山部門 下呂農林事務所 熊崎技師の発表



「丸太伏工施工後の経年変化と効果について」
林道部門 恵那農林事務所 金子技術主査の発表

【治山課 下垣内 友哉】



山のおじまむし



— 運の分かれ目、トカゲ — 【第316回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

今回もY君から捕って欲しい頼まれている動物の話。トカゲだ。トカゲは身近にいるのでよく見かける。しかし、動きが早いので、簡単には捕れない。だけど捕らなければならない。早速、捕虫網を手にして、近くの雑木林周辺や神社の境内などを探した。というより地面を見て歩くだけ。これでトカゲが捕れるのかと自分でも笑えてきた。あちこち歩いた。半日探したがその気配すらなかった。その時トカゲの生態や習性も知らずに歩くだけでは駄目だと思った。そこでトカゲについて調べてみた。このあたりで目にするのは、二ホンカナヘビという名のトカゲと尾が金緑色に輝くニホントカゲである。ともに昼間に活動し、夜は二ホンカナヘビが落ち葉の中で、ニホントカゲは土中に掘ったトンネルの中で休むという。となると飼育するにはニホントカゲは難しいので、二ホンカナヘビ（以下、トカゲ）だけだ。ますます難しくなったと思った。次に捕り方。「見つけたら素早く両手を大きく広げて、上から押さえ込む」と記してあった。これが捕り方かと思わず笑えてきた。これは難しい。運がよければ捕れるだけのことはないか。その運の神様をお願いしながら、またトカゲ捕りを始めた。

× × × ×

トカゲ捕りは歩くだけのこと。しかし、これが出来ない。あきてくるのだ。そこで考えたのが、万歩計をつけ、小型レコーダーで好きな落語や漫才を聞きながら歩く方法だ。これを始めたら歩くのが苦にならなくなった。今日はどれだけ歩いたのかと、万歩計を見るのも楽しみだった。こうしてトカゲを探した。しかし、私の前に姿を現すことはなかった。ある日、Y君が庭でトカゲを見つけた。2人で壁際まで追い詰めたが逃げられた。「あと少しで捕れたのに」と落胆した。しかし、トカゲを見たというのは運の第一歩。また出てくるような気がした。そのとおりだった。神社の石垣にトカゲがいたのである。尾は金緑色。ニホントカゲであった。しかし、すぐに石垣の中へ逃げてしまった。このトカゲは捕っても飼育出来ないと思ったものの、悔しかった。これが運の神様を呼び寄せたのか、この後はよく見るようになった。しかし、すべて空振り。捕ることが出来なかった。この中には悔しいこともあった。落ち葉の上にいるので捕虫網をかぶせた。トカゲは落ち葉の中へ逃げる。その落ち葉を手で押さええた。「ついに捕まえた」と胸が躍った。ところがトカゲはいなかった。「どこへ行ったのだろう」と捕虫網の下にある落ち葉をすべて除いた。しかし、いなかった。この素早い身のこなし。忍者のようであった。

× × × ×

その後もトカゲと出会った。しかし、捕虫網を出す前に逃げられてしまう。この繰り返しだった。ある日、今日も駄目だったと

重い足取りで帰る途中、路上にトカゲ。すぐに逃げ出したが、側溝に落ちてしまった。たまたまその溝には水が貯まっていたので、トカゲの動きが鈍くなった。両手で押さえ込んだ。「ついに捕った!」と胸が躍った。Y君の喜ぶ顔が目には浮かんだ。運と不運は紙一重。水のたまっている側溝に落ちたトカゲは不運で、私は幸運。まさに、ここが運の分かれ目だと思った。トカゲはプラスチック容器で飼い始めた。容器に触れると危険を感じるのか走り回った。それを見ている3人のチビちゃんたちの顔。絵になる光景であった。

トカゲの餌は生きてい
る小さな昆虫やクモ。
これを採るのは私の役
目。餌採りが日課とな
った。バッタ、コオロ
ギ、クモや芋虫（蛾の
幼虫）などを採り、こ
れを与えた。トカゲは
狙った獲物に近づきあ
っという間に口にく



▲愛らしいカナヘビ

わえてしまう。この動作をチビちゃんたちは真剣に見つめていた。「お爺ちゃん、トカゲの一番好きなのは芋虫でその次はクモだよ。 TENTUMシは食べないよ」と言った。本当だろうか。私自身で確かめてみた。腹が減ってない時は芋虫やクモを優先するが、空腹時だと何でも襲うことがわかった。しかし、背中が硬い翅で覆われているコガネムシやTENTUMシなどは食べなかった。こんなことがわかり私自身もトカゲに興味をわいてきた。

× × × ×

覚悟はしていたものの餌採りは大変だった。捕虫網を振って中にいる小さな芋虫やクモなどを採った。これだけのことであるが毎日というのがきつかった。それと蚊。ブーンと音をたててまとわりついてくる。顔や腕がふくれあがり、体中が痒くなる。これが嫌だった。トカゲの顔は愛らしい。見れば見るほど可愛くなってくる。チビちゃんたちも同じだ。そのうちに「手でつかみたい」と言い出した。しかし、いつも「トカゲが死んじょうから駄目だよ」と答えた。本心は「いいよ」と答えたかったが、トカゲに逃げられてしまうと「お爺ちゃん、また捕ってきて」と言われそうだからである。トカゲの容器は食卓のテーブルの上。チビちゃんたちはこれを眺めて食事をしている。「トカゲが芋虫を口にくわえた」と下のチビちゃんの声。これを見た我が女房、ヘビやトカゲは大嫌いで、見ただけで鳥肌がたつという。大きな声で「あー気持ち悪い。トカゲを見ながら食事なんて。よく食べられるね」。



安八町

ハートピア安八児童館での木育

木々の温もりで迎える児童館

生涯学習センター

ハートピア安八

生涯学習センターハートピア安八は、平成15年3月に開館した、安八町役場の西隣りに位置する複合施設です。館内には、児童館のほか、図書館や歴史民俗資料館、会議室、パソコン研修室などがあり、その他にも県内最大口径の天体望遠鏡を有する天文台と小型のプラネタリウムも整備されています。



▲生涯学習センターハートピア安八

ハートピア安八児童館

ハートピア安八児童館の明るく開放感がある遊戯室では、子どもたちに大



人気の木製遊具『木の巨人』が出迎えてくれます。その他にもたくさんさんの木製玩具、布製玩具があり暖かさをかもし出しています。



▲子どもたちを迎える『木の巨人』

木のぬくもりを大切にしてある児童館で、遊具の選択には木製品であることが優先されています。

ぎふ木育ひろば

平成28年には、ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業を活用させていただき、小学生用スペースやベビースペースの間仕切りなどを整備させていただきました。そして、平成29年では、子どもたちが安全に遊べる様々な木

の遊具を整備させていただきました。ハートピア安八児童館の『ぎふ木育ひろば』のスタートです。

これらの事業の成果もあり、児童館に入ると、多くの木の製品が目に入ります。木の壁、床、隔壁、そして多くの遊具たちです。子どもたちは、これら木製品に囲まれて、のびのびと遊んでいます。来館された保護者からも「木々の暖かさを感じる」「癒される」といった好意的なご意見をいただいています。

『ぎふ木育ひろば』は、いつでも、だれでも、木のおもちゃに触れて楽しむことができる木育の拠点です。

今、木で豊かな心を育む『木育』という考え方が全国的に広がっています。『木と触れ合い 木に学び 木と生きる』を大切に、岐阜県の豊かな自然の中の木材の持つ『暖かさ』『優しさ』を体感してほしいと思っています。



▲木育ひろばの看板



▲キッズスペースの隔壁

新規整備の木のおもちゃたち

平成29年度の事業で整備した木製遊具は、岐阜県産のヒノキからできた『竹馬収納箱』『ボールプール』『ままごとおもちゃセット』『木製クルマ』です。また『キッズスペース用間仕切り』として、ヒノキでできたベンチもあります。親子が気軽に木に触れて、親しむことができる癒しの空間でありたいと願っています。

ぜひ、ぎふの木育玩具で遊び、笑顔あふれるひと時をお過ごしください。



▲竹馬収納箱



▲ボールプール



▲ままごとおもちゃセット



▲木製クルマ

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0584-6311515(代)

生涯学習センターハートピア安八まで

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

平成24年度より県民みんなで豊かな自然環境を守る仕組みとして導入した「清流の国ぎふ森林・環境税」は、平成33年度末まで5年間延長されました。税活用事業の内容も見直しをしましたので、新しい内容の事業を含め連載で紹介します。

野生動物総合対策普及推進事業 寄附研究部門「鳥獣管理の教育と普及」の発足と活動内容

岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター
寄附研究部門「鳥獣管理の教育と普及」 准教授 森部 絢嗣

第1期の寄附研究部門（鳥獣対策研究部門）では、多くの方々のご支援とご協力により、岐阜県内の野生動物に関する科学的知見を蓄積できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。成果につきましては、当センターのホームページ上に業績一覧を掲載していますのでご覧ください。（<https://www1.gifu-u.ac.jp/~rcwm/endowed.html>）

鳥獣対策を一層推し進めていくためには、鳥獣に関する正しい知識や情報を地域へ普及し、地域住民が主体となって実践できる体制を作っていく必要があります。そこで第2期の5年間は、教育と普及に重点をおいた寄附研究部門「鳥獣管理の教育と普及」としてスタートしました。当部門は以下の課題に取り組んでいます。

①鳥獣対策の調査研究

- ・県民への普及に向けた鳥獣対策の調査研究及び効果検証

②教育と普及

- ・住民主体の鳥獣対策の普及、鳥獣対策に取り組む人材の育成
- ・大学、県内教育機関等における教育研究の充実と活性化

■平成29年度の取り組み

①シンポジウム

「これからの森林(もり)づくりとシカ対策」(7月2日実施済)

②連続講座「野生動物を知る」

広く県民の方に野生動物を知って頂くために様々な講師をお招きし、以下の連続講座を開講しています。

- 第1回(6月7日) 人との関わりの歴史
- 第2回(8月18日) 第2回 絶滅の危機を乗り越えたツキノワグマの保全と管理
- 第3回(9月19日) イノシシの行動と被害対策～素顔を探る～
- 第4回(10月17日) サルについて(仮)
- 第5回(11月18日) シカについて(仮)
- 第6回(12月18日) 外来生物について(仮)
- 第7回(1月20日) カラスについて(仮)
- 第8回(2月) 未定

③社会人公開授業「野生動物管理学入門」

岐阜大学で行われている授業を一般の方でも受講できる制度を活用し、「野生動物管理学入門」を開講しています。野生動物管理に関する様々なテーマを聴くことができます。

④教員免許状更新講習

教育現場へ最新の野生動物に関する情報をお伝えするため、下記科目を実施しました。

「野生動物から生物多様性を考える」

⑤被害防止捕獲研修会(鳥獣行政担当者向け:実施済)

地域における鳥獣対策が適切に行われることを目的として開催しました。

⑥鳥獣対策の調査研究

県民への普及に向けた鳥獣対策を図るためには、現状のモニタリング調査や効果的な手法や体制に関わる研究が欠かせません。現在、鳥獣対策の効果検証に関わるデータ収集および捕獲手法や体制に関する研究を行っています。

■情報発信

当センターでは、シンポジウムや講座など野生動物管理に関する情報を発信しています。ぜひご覧ください。

ホームページ：<http://www1.gifu-u.ac.jp/~rcwm/>

Facebook：<https://www.facebook.com/gurcwm/>

■お問い合わせ

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター

TEL&FAX：058-293-3416 E-mail：rcwm@gifu-u.ac.jp



シンポジウムの様子



連続講座の様子



平成29年度 指定管理鳥獣捕獲等事業について



1 指定管理鳥獣捕獲等事業とは

平成26年5月の「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」の一部改正により創設された制度で、集中的かつ広域的に管理を図る必要があるとして環境大臣が定めた鳥獣（指定管理鳥獣：ニホンジカ及びイノシシ）について、都道府県又は国が捕獲等をする事業「指定管理鳥獣捕獲等事業」を実施できることになりました。

2 岐阜県における当該事業の実施状況

ニホンジカとイノシシを対象に、これらによる農作物被害額の多い市、ニホンジカについては森林下層植生調査で被害の拡大が見られる市も実施区域として実施します。

- 実施区域** ニホンジカ：本巣市、大垣市、海津市、郡上市、中津川市、恵那市、下呂市、高山市
イノシシ：美濃加茂市、中津川市、恵那市
- 捕獲期間** 平成29年11月頃～平成30年3月（捕獲予定頭数に達し次第、終了）
- 捕獲対象、捕獲予定頭数** ニホンジカ：500頭 イノシシ：200頭
- 捕獲方法** わな猟（くくりわな、箱わな）
- 委託先** 認定鳥獣捕獲等事業者及びそれに準ずる者



【農村振興課 石田 章一】

モニタリング研修会を開催しました

—岐阜県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会主催—

県下では、国の森林・山村多面的機能発揮交付金事業を活用して、30を超える団体（平成29年度：32団体）が、平成26年度から里山林整備に取り組み、毎年200haを超える里山（平成28年実績：252ha）が地域の方々の努力で生き返っています。

国では、この活動の成果をより分かりやすい形で把握するため、「交付金の効果の調査（モニタリング）」を今年度から実施することにし、各活動団体に調査が義務付けられました。何分、初めての調査であることから、協議会では、「モニタリング研修会」を開催することとし、県の森林研究所の全面的なご協力により、8月31日、9月8日の2回に分けて、森林研究所と森林文化アカデミー演習林を会場に開催しました。

研修会には、18団体29名（他に市町村担当者3名）が参加しました。研修会は、まず講師の森林研究所 片桐奈々研究員から、国の示すモニタリングのガイドラインの考え方について講義を受けた後、演習林内で、調査のためのプロットの設定、プロット内での樹木の調査を参加者全員が体験し、疑問点などについて講師との意見交換を行いました。

参加者からは、「ようやくモニタリングの内容が把握できた。有意義な研修であった」といった感想も聞かれ、研修開催に一定の成果があったと感じました。



【山林協会 瀬上 繁隆】



下呂地域における普及活動

— 自伐林家とともに —



■下呂農林事務所 林業普及指導員 和仁 礼二

下呂農林事務所管内は、岐阜県の東部に位置し、下呂市1市からなり、森林面積は約785km²で総面積の約92%を占め、そのうちの約7割にあたる554km²が民有林です。

管内の森林・林業は、戦後から積極的に人工造林が進められ、民有林の人工林率は62%を占め、その約7割がヒノキとなっていて、本県の中核的な林業地として発展してきました。

森林整備の担い手として、管内には2つの森林組合と11の林業事業者があり、67名の森林技術者が従事しています。近年は、新規就業者より定年等による退職者が多く微減傾向になっています。

また、林業事業者以外にも、各地域に森林造成組合（森林所有者で組織する組合）があり、その中のリーダー的存在である自伐林家が、自己所有林や地域の森林を自ら施業するなど、各地域で様々な活動を行っています。

今回は、特に自伐林家の方を対象に取り組んだ普及活動について報告します。

伐採・目立て研修

管内の年間伐面積約千haのうち、1割は自伐林家が実施するなど、自伐林家を中心に地域住民自らが、伐採業務に従事していますが、森林組合や事

業体のように安全教育を受けていない方がほとんどです。

よって、正しい伐採技術やかかり木処理を学んでもらうため、また、チェーンソーの正しい扱い方法や目立て方法を学んでもらうための「伐採・目立て研修」を開催しました。

当研修では、郡上市明宝のくさかべ林業の目下部修氏、森林文化アカデミーの田中係長、長屋係長にも講師として協力していただきました。自伐林家の伐採技術への関心の高さもあり、予想をはるかに上回る45名の参加がありました。



▲伐採・目立て研修

室内研修では、林業災害の死亡事例、チェーンソーによる伐木造材の安全に關するガイドライン、安全な伐採の方法

について説明しました。

目下部講師からは、チェーンソーの仕組みから安全に使うための方法、点検ポイント、安全装備について説明がありました。

目立てについての講習では、目下部講師が図を用いて説明するなど、具体的にわかりやすく説明していただきました。その後、参加者が自分のチェーンソーで目立ての実習を行いました。また、受講者が持参した所有の動きの悪いチェーンソーを、講師の方によく動くようにキャブレターを調整していただきました。受講者の方々は大変喜んでおられました。

現地研修では、伐採の実演と説明を行いました。

具体的には、伐倒の際のつるの重要性、皮剥けや芯抜けの防止、伐倒先の切株による材の割れに対する処理等を説明していただきました。

かかり木処理の実演では、わざとかかり木にさせ、かかり木処理を実演していただきました。独自の道具を使い、あつという間に倒した時は受講者から感嘆の声が上がりました。

受講者からは、「伐採の基本を思い出すことが出来た。」「安全装備を着用することで事故防止につながるが分かった。早速購入したい。」「目立てが大変重要であることが分かった。」等の感想があり、大変好評な研修になりました。

た。

今回の研修を機に、自伐林家の安全に対する意識の向上を図ることが出来ました。今後も引き続き、伐採作業についての安全面・技術面のレベル向上を図り、地域の森林整備の担い手の育成に繋げていきます。

製材工場等視察研修

木材価格の低迷が続いている中で、少しでも有利に販売するためには、製材工場等需要者のニーズを把握する必要があります。そこで、下呂地域の主力の製材工場である「倉地製材所」、飛騨地域でノーマン工場として多くの製材を行っている飛騨高山森林組合の製材工場「木材製品流通センター」、県森林連飛騨林産物共販所」への視察研修を開催しました。

倉地製材所では、「年間1万7千立方を製材しており、柱、土台用のみでなく、垂木など住宅建築に必要な部材を生産している。小径木も積極的に出材してほしい。大径木ばかりになると歩留まりが悪くなる、林齢の若返りを図るべきである。」などの説明がありました。

木材製品流通センターでは、「年間2万2〜3千立方製材しており、スギをメインにヒノキ並材も製材している。出材について、年間を通じて平準化を図るべきである。」などの説明がありました。

県森林連飛騨林産物共販所では、「広葉樹やイチイなどの需要があり、他の市場で値がつかないものも高く売れることがある。造材は伐倒木の形状をよく見極めて、商品価値の高度化を図り最大の利益を確保することが肝要である。樹種によってそれぞれの用途が違ってくる。それぞれの樹種ごとの用途を理解し適寸で造材することが必要である。」などの説明がありました。

今回の研修では、工場での製材工程や製材品、市場への出材状況を実際に見ることができ、より現実的で実のある研修となりました。

出材時の収益を確保するには、最新のニーズを把握しながら適寸で造材することにより、A材の出材量を増やすことで有利に販売できる体制づくりが必要であり、今後も同様の研修を継続的に行っていく予定です。

主伐・再造林研修(皆伐編)

下呂地域の森林は、県全体よりも林齢が高い状態にあります。そこで、森林所有者が積極的に主伐・再造林に取り組むことを目的として、萩原町四美地内の「主伐・再造林実証プロジェクト」事業地を会場として「主伐・再造林研修」を開催しました。

室内研修では、下呂市の民有林の樹種の状況や林齢構成、現在の木材価格の状況、製材工場等のニーズに合った

材を安定的に供給していくためには再造林が不可欠であることを説明し、主伐・再造林の推進への働きかけを行いました。

主伐実施地の現地研修では、受注者である南ひだ森林組合から実施方法について説明を受けた後、皆伐・集材状況を視察しました。現地では、イワフジのタワーヤーダ(TYU-UB)を、デモ機として使用して集材しており、その稼働状況を見てもらうことができました。



▲主伐・再造林研修

今回は、主伐・再造林の皆伐編であり、当該現場の植栽時期に合わせて、植栽編を実施する予定です。

管内にある下呂林木育種場(下呂市乗政地内)において、コンテナ苗の生産施設である「岐阜樹木育苗センター」が整

備されたことで、下呂市内はもちろん県内外での主伐・再造林に向けての苗木の供給体制が確立されました。

主伐・再造林を進めていくには、森林所有者が再造林に積極的に取り組む意識になることが必要です。そのためには、主伐時(伐採・搬出・造材)の効率化を図りコストを下げることで、森林所有者への還元額をいかに増やすことができれば課題となります。

終わりに

平成29年度から「自伐林家型地域森林整備事業」が新規に創設され、自伐林家の森林整備を支援することになりました。今後、当事業を普及・活用しながら自伐林家による森林整備量の拡大を図るとともに、林業事業体と自伐林家それぞれに対し、様々な研修や普及活動を行うことで担い手の育成を図っていきます。

当管内は林業事業体はもちろん、多くの自伐林家の方達が活躍しています。今後も、全ての林業従事者と一体となった協力体制により、「100年先の森林づくり」「生きた森林づくり」「恵みの森林づくり」に取り組んでいきます。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0576-1521-3111

下呂農林事務所まで

ヒノキ・コンテナ苗の

通年植栽を考える

森林研究所 ● 渡邊 仁志

再造林を低コストかつ確実に実施するため、近年、コンテナ苗の利用が進められています。コンテナ苗は「通年植栽が可能で、初期成長が早い」ため、伐採から植栽までを連続して行う一貫作業と下刈り回数削減の低減によって、保育費用の圧縮が期待されているからです。しかし、岐阜県に多い急傾斜やヒノキの特性を踏まえた検証は、十分ではありません。

岐阜県では、現在コンテナ苗の検証を進めています。これまでも、育成条件の工夫により、初期成長が早いヒノキ・コンテナ苗を育成できることを紹介しました（本誌七五五号）。ここでは、「植栽時期を選ばない」というコンテナ苗のもうひとつの特性を考えてみました。

コンテナ苗の通年植栽

通年植栽ができるかどうかは、苗木の活着率と成長経過を評価すれば

分かります。そこで、二五〇三二ヶ月間育成したヒノキのコンテナ苗を、春（植栽適期）、夏、晩秋の三回、下呂市金山町の皆伐跡地へ植栽し、三年間の経過を調べました。すると、どの時期に植栽したコンテナ苗も八割以上が活着し、比較用に植栽した春植え裸苗以上の成績でした。

しかし、夏植えと晩秋植えのコンテナ苗は、春植えのコンテナ苗より植栽時の樹高が大きかったにもかかわらず、生育期間が短かった植栽当年だけでなく、二年目にもほとんど伸長しませんでした（図1a）。つまり、今回の山出し方法では、成長低下の影響が長く続くため、下刈り軽減という目的を重視するならば、植栽時期は春に限定されます。

苗木の成長に影響する要因

実は、夏植えや晩秋植えのコンテナ苗は、春植え用の苗木を試験的に

それぞれの植栽時期まで残しておいたもので、コンテナの中で徒長していました。これらの苗木はまず肥大成長を優先させ、比較苗高（苗木の高さと太さのバランス）を低下させたあと（図1b）、植栽三年目になつてようやく伸長しはじめました（図1a）。このことから、苗木を速やかに大きくするには、比較苗高の低い苗木を植栽しなければならないといえます。

しかし、苗木の生産現場は、春植えにあわせたスケジュールでコンテナ苗を生産しているため、春以外に植栽する場合、春植え用の苗木を残しておく（今回の状態）か、翌春に植栽予定の苗木を前倒しして使うしかありません。今後、品質の高い苗木をいつでも植えられるようにするには、それぞれの植栽時期に苗木が適切な形状になるよう、播種・移植の時期や管理方法を最適化した生産体制が求められます。

これまでの研究で強く感じるのは、コンテナ苗を用いた低コスト再造林を実現するためには、目的にあわせて「どんな」コンテナ苗を作り、植えるのかをしっかりと考えることが重

要だということです。そのためには、種苗生産を担う方と植栽・保育作業を担う方が、今まで以上に情報交流することが必要だと思います。

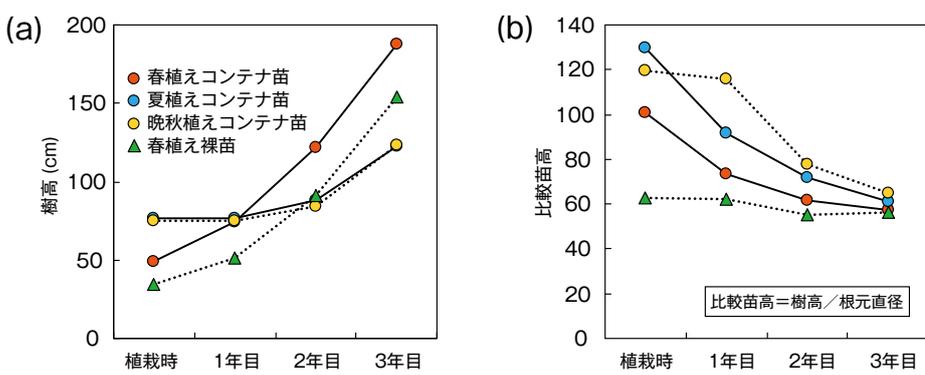


図1 苗木の植栽時および植栽1～3年目期末の樹高、比較苗高

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1331-2585

森林研究所まで

治山・林道研究課題

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。今年2月に行われた発表会（本誌763号18～19ページ）で発表された研究課題を紹介いたします。

既設治山ダムの嵩上げについての「考察」

下呂農林事務所林業課 熊崎尚弥

はじめに

近年、岐阜県において既設治山ダムの機能強化を目的とした嵩上げが実施されています。これは、近年の局地的な豪雨による土石流により、人家等が被災する災害が多発していることから、治山ダムに土砂の捕捉機能を持たせ、より保全対象の安全を図ろうとするものです。嵩上げには、コスト縮減、施設の老朽化対策と強靱化の同時施工、支障木伐採範囲が小さいなどのメリットがあり、下呂農林事務所管内でも積極的に取り組んでいます。今回は嵩上げの施工事例及び設計方法を紹介します。

下呂市小川地内

一つ目の事例は、平成28年度事業、下呂市小川地内での事例です。

この箇所は、治山ダムが階段状に配置された渓流内で山腹崩壊が発生し、土砂が堆積したため、崩壊土砂の流出の防止を目的に治山事業を計画しました。この渓流には既設治山ダムが密

に配置しており、治山ダムを新設することが困難であったため、嵩上げすることで対応しました。

嵩上げの形状について、一般的に上流側に嵩上げを行う場合と下流側に行う場合の二種類があります。国策定の「既存治山施設の機能強化対策指針」には安定度や経済性、施工性を総合的に判断して決定することとされています。当該箇所においては、上流側の嵩上げと下流側の嵩上げを行った場合を比較して形状を決定しました。

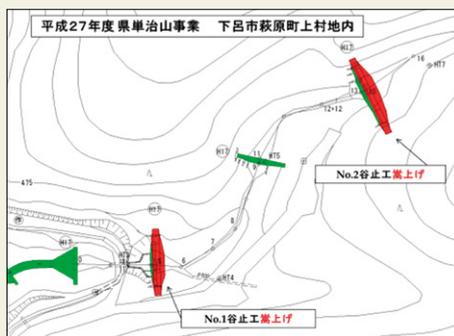
経済性、施工性等から総合的に判断した結果、下流側の嵩上げを採用しました。



下呂市萩原町上村地内

二つ目の事例は、平成27年度事業、下呂市萩原町上村地内での事例です。

この渓流には、平成17年度に治山ダムが4基施工されておりありますが、上流部で渓流の荒廃が進み、突発的な土石流が発生する危険性があるため、これを捕捉し保全対象の安全をより高めることを目的に、既設治山ダム2基の嵩上げを実施しました。



嵩上げの形状について、No.1谷止工の下流には用水路及び管理道があり、下流側に嵩上げを行う場合、これらの施設に影響が及ぶ恐れがあるため、上流側の嵩上げとしました。No.2谷止工については、上流側の嵩上げと下流側の嵩上げを行った場合を比較しました。

経済性、施工性等から総合的に判断した結果、上流側の嵩上げを採用しました。

まとめ

以上、嵩上げの事例を紹介しましたが、今回施工した箇所において設計者及び施工業者の意見をまとめてみました。上流部の嵩上げは下流に構造物があるため下流側嵩上げより水替えが多く必要になります。

・上流部の嵩上げの床掘は構造物と土砂に囲まれるため安全面での注意が必要になります。

・古い既設ダムは構造図面が保存されていない場合があり、今回の施工箇所においても床掘の結果、当初設計図面と現場寸法が相違し設計変更が生じました。

最後に今後の課題としまして、現在、嵩上げに関する諸基準が明確化されておらず、他の基準を準用している状態です。今後、機能強化を目的とした嵩上げの事例が増えていくことを考え、基準が明確化することを期待します。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL0576-521-3111

下呂農林事務所まで



「100年先の森林づくり発表会」を 開催します

岐阜森林管理署 大島 愛彦

市町村森林管理委員会への参画状況

本題に入る前に、岐阜森林管理署の市町村森林管理委員会への参画状況を紹介します。

平成28年6月1日に岐阜森林管理署から各市町村長へ「国有林における森林総合監理士等による市町村への協力の推進について」という文書を通じました。内容としては、岐阜森林管理署の職員が各市町村の森林管理委員会等に参画し、地域の実情に応じて、例えば国有林野事業で先駆的に取り組んでいるコンテナ苗や鳥獣被害対策など具体的な提案を行い、各市町村の森林・林業の課題解決に取り組むとともに、市町村森林整備計画の作成及びその達成を支援するというものです。

表1のとおり国有林のある市町村では概ねお招きいただき、各地域に駐在する森林官とともに参加しています。関係する市町村の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

参画時期	市町村名
H27以前から参画	本巢市、揖斐川町、美濃市、郡上市、下呂市
H28から新たに参画	山県市、岐阜市、七宗町
H29から新たに参画	関市

表-1 岐阜森林管理署の市町村森林管理委員会への参画状況

民有林と連携した森林整備等の推進は、林野庁として重要な事業と位置づけられており、森林管理署は林野庁の現地機関として協力をしていますので、他の市町村の皆様からお声かけをお待ちしています。

「100年先の森林づくり発表会」を開催します

岐阜県では平成29年度から第3期岐阜県森林づくり基本計画がスタートし、政策の柱としてこれまでの「生きた森林づくり」と「恵みの森林づくり」に加えて「100年先の森林づくり」を進めることになりました。

各市町村で岐阜県独自の森林配置計画（ゾーニング）を設定しようと地域検討会に参加していますが、森林・林業の関係者だけでなく、一般の人にも100年先の森林づくりを知ってもらうことが重

要です。

岐阜森林管理署の管轄は飛騨川流域、長良川流域、揖斐川流域と広域であり、その中でも下呂市に国有林が多く存在することから、本署は管内北端の下呂市小坂町にあります。下呂市においては民間連携した森林共同施業団地の設定など、下呂市や下呂農林事務所と連携した取り組みを進めています。こうした取り組みをさらに円滑に進めるため、国、県、市が連携して、全国植樹祭の開催地である下呂から100年先の森林づくりを発信する発表会を企画しました。

内容は次のとおりです。業務の参考にぜひご来場ください。

日時	平成29年11月16日(木) 10時~16時
場所	下呂総合庁舎大会議室
定員	130人(入場無料、参加申込不要)
発表者	小坂小学校、飛騨高山高等学校環境科学科 南ひだ森林組合、NPO法人飛騨小坂200滝 岐阜県水産研究所下呂支所 岐阜森林管理署、岐阜県下呂農林事務所 下呂市、名城大学、名古屋大学 NPO法人森のなりわい研究所
特別講演	赤堀 楠雄 氏(林材ライター) 「林業におけるブランド化とは ~下呂地域の持つ可能性~」
主催	岐阜森林管理署(国) 下呂農林事務所(県) 下呂市(市)

詳細は、岐阜森林管理署のHP
(<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/gihu/index.html>) をご覧ください。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 050-3160-6060(代)

岐阜森林管理署まで

「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した県民参加型の森づくり・川づくり活動等を紹介し、清流の国ぎふづくりを考えるフォーラムを開催します。（「清流の国ぎふアワード 2017」として清流ミナモ賞表彰式と合同で開催します。）

日時：平成29年11月24日（金）13:30-16:30

場所：ぎふ清流文化プラザ（岐阜市）

参加費：無料

申込方法：氏名・住所・連絡先を、FAX、E-mailのいずれかでご連絡ください。（先着順）

お申込・お問合せ：

（電話）058-272-8472

（FAX）058-278-2702

（E-mail）c11513@pref.gifu.lg.jp



古民家再生による里山の活性化（仮題）
講師：カール ハイנטツ ベンクス氏
（ドイツ人建築デザイナー）



木を使う社会の仕組み～ソマミチの取り組み～（仮題）
講師：原 薫氏
（ソマミチ代表 榎柳澤林業代表取締役）

森林・林業関係イベントカレンダー（11～12月）

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
11月16日(木)	100年先の森林づくり発表会	小学生から専門家まで各視点で森林・林業の取組を発表し、全国植樹祭を開催した下呂市から100年先の森林づくりを発信します。 （特別講演：林材ライター 赤堀楠雄氏） ●時間：10:00～16:00 ●定員：130名 ●参加料：無料、事前申込不要	下呂総合庁舎大会議室（下呂市萩原町羽根2605-1） 岐阜森林管理署 0576-62-3121 下呂農林事務所林業課 0576-52-3111（内線217） 下呂市林務課 0576-53-2010（内線142）
11月25日(土)	狩猟免許試験	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間 9:30～17:00 ●申込 10/27～11/10 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	中濃総合庁舎 （美濃市生櫛1612-2） 各地域を所管する県事務所、又は環境企画課 （058-272-1111内線2701）
12月1日(金)	刈払機取扱 作業安全衛生教育	●講習時間：9:30～15:30 学科 15:30～16:30 実技 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：11,340円（本代含む）（振込み） ●定 員：30名（定員になり次第締め切ります。）	ぎふ森林文化センター （岐阜市六条江東2-5-6） 林業業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
12月5日(火)～ 12月8日(金)	フォークリフト 運転技能講習 受講資格： 自動車普通運転免許 所持者	●講習時間：1日目 8:30～16:40 学科 16:30～17:30 学科試験 2～4日目 8:00～17:30 実技・試験 ●申 込：開催日の20日前まで ●受講料：31,860円（本代含む）（振込み） ●定 員：30名（定員になり次第締め切ります。）	学科：伊自良中央公民館（山県市大門912-1） 実技：ぎふ農協伊自良共選場（山県市洞田127-5） 林業業労災防止協会岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
12月13日(水)	狩猟免許試験	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時 間：9:30～17:00 ●申 込：11/15～11/29 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	恵那総合庁舎 （恵那市長島町正家後田1067-71） 各地域を所管する県事務所、又は環境企画課 （058-272-1111内線2701）



「〇〇の秋」と言えば、食欲の秋、読書の秋などいろいろな秋があります。私は紅葉の秋が浮かびます。我が家の庭先に植えているカツラの木などが綺麗に色づき紅葉を身近に感じながら、自宅近くのながら川ふれあいの森に家族と一緒に散策してみようかと思っています。

今月、第2回日独林業シンポジウムが岐阜県で開催されます。昨年、ドイツ・ミュンヘン郊外にある森林環境教育施設「グリーンバルト」を見学する機会がありました。その森林の中で週末を過ごす親子連れの多いことが印象に残っています。皆さんも、ドイツを感じる機会としてシンポジウムに参加してみませんか。

「森林のたより」編集委員 山田 真一

イベント情報

12月1日発行

連載

- 山の歳時記（148）
- 山のおじゃまむし（317）

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵（60）

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築（58）

わがまちの森林・環境行政（12）

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

12月号
予定

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1640回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,200	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
			16~18cm	11,200	—	
		4 m	20~22cm	11,700	—	
			24~28cm	12,700	15,000	
			30cm以上	12,000	23,700	
	ひのき	3 m	16~18cm	16,300	—	
			20cm以上	15,000	—	
		4 m	16~22cm	16,800	—	
			24~28cm	14,500	—	
			30cm以上	16,500	—	
第1217回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,000	—	
			24~28cm	12,000	—	
		30cm以上	11,000	18,000		
	ひのき	3 m	16~18cm	16,000	—	
			20~22cm	15,500	—	
		30cm以上	17,000	40,000		
	まつ	4 m	24~28cm	9,000	—	
			30cm以上	10,000	—	
		ひめこ	4 m	24~28cm	14,000	—
				30cm以上	16,000	28,000
くり	4 m	24cm以上	20,000	22,200		
第1550回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~20cm	12,200	12,900	
			22~28cm	12,500	13,900	
	ひのき	3 m	30cm以上元	13,500	30,000	
			16~20cm	16,700	21,700	
			22~28cm	14,700	26,000	
		4 m	30cm以上元	19,800	—	
			13cm以下	9,000	—	
			22~28cm	15,000	26,000	
	まつ	4 m	30cm以上元	20,000	47,000	
			18~20cm	27,100	29,700	
10月5日	まつ	4 m	22~28cm梁	7,500	—	
30cm以上元			10,000	—		

木材市場

全般的に横ばい(弱含み)で推移

【商況】

スギ並材3m(16~24cm)は不足しており強含み。スギ4m元木、二番ともに中目、中目上強含み。ヒノキ並材4m土台取り強含み、造材は4m(16~22cm)が有利。ヒノキ二番中目材は荷動きも少なく、弱含み。スギ・ヒノキ良材は、樹皮の剥離しているものは売りづらい。製紙パルプ向け広葉樹原木、受け入れ制限となっております。予定される方は共販所担当者まで一報ください。(岐阜)

ヒノキ並材4m(16~22cm)強含み。4mヒノキ二番中目材は荷動き少ない。スギ並材は3m(16~24cm)が不足、需要期を迎えヒメコ、広葉樹は若干であるが上昇の気配有り。カラマツの引き合いが強く買気旺盛。スギ太物欠陥材は売りづらい。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m・3m・4m・6mは応札も多く横ばい。ヒノキ並材は3m・4mとも(16~28cm)横ばい、6m(16~20cm)は価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木、良材は応札多くやや高値、二番玉並材3m・4mとも(16~28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。スギについては、県内新工場稼働(長良川木協)につき今後原木の流れが良くなるが、荷不足感が強い。(東濃)

製品卸売標準価格 (9月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
		3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松) 特等	65,000	(2,808)	→
W集 ウ成 ド材	柱	3000	105	105	国産5層	59,000	(1,950)	→
		3000	120	120	国産5層	60,000	(2,580)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (9月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	295	米栂	へム(アラスカ産)	288
	コースト(目荒)	310	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)



木材用語一口メモ

KD材

人工乾燥材(Kiln Dry Wood)のこと。製材の日本農林規格(JAS)では、人工乾燥処理は、「人工乾燥処理装置によって人為的及び強制的に温湿度等の管理を行うこと」と定義されています。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建築用語辞典